

平成29年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる
施策の目標	区内に点在する観光拠点・資源の連携により、観光地としての魅力が向上するとともに観光プログラムが充実し、多くの人々がすみだを訪れ、まちがにぎわっています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	観光客による区内観光施設等の平均立寄り地数									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					3.5箇所					4.0箇所
実績										
指標名	区内における来訪者の観光消費額推計									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					4,500億円					4,750億円
実績										

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
両国観光案内所の来場者数が着実に増加している。両国地域の観光資源を数多く回ってもらい、長時間滞在することで消費活動につなげていくため、観光資源を連携させ、まち歩き観光を推進する必要がある。	H28	4,000
	H29	
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	両国観光案内所の来場者数が目標値以上となっており、両国へ観光に訪れる方が着実に増えている。引き続き観光まちづくりを推進する。

4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
引き続き、エリア懇談会等を通じ地域の方との協働による事業を継続することで、各エリアでの取り組みを観光まちづくりに繋げていく。	
【今後の具体的な方針】	
行政主導の先導的事業の実施から、地域主導の取組につなげていく段階に移行し、オリンピック・パラリンピックに向け、地域の自主事業を活性化するとともに、支援体制の構築を図る。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	両国地区まちづくり事業	4,000	両国地域の貴重な観光資源を輝かせ、両国らしい賑わい呼び覚まし、両国地域の魅力の底上げを図ることで、区内の観光回遊性を促し、墨田区のさらなる魅力の向上を図る。	1,864,000 人	↗	現状維持
				2,330,966 人		平成28年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

平成29年度 事務事業評価シート

施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	両国地区まちづくり事業					1		
事業概要	平成25年7月に策定した「両国観光まちづくりランドデザイン」に基づき、地域の方の意見を伺いながら両国観光まちづくりを推進する。					主管課・係（担当）		
						都市計画課・まちづくり支援担当		
						03-5608-1204		
施策への 関連性	両国地域の貴重な観光資源を輝かせ、両国らしい賑わいを呼び覚まし、両国地域の魅力の底上げを図ることで、区内の観光回遊性を促し、墨田区のさらなる魅力の向上を図る。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	区が地域の方々の意見を伺い、地域の取組等を踏まえ、ソフトとハードが相互に連携しながら事業を進めることで、効果的に観光まちづくりを進める必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	地域連絡会、エリア懇談会の開催				単位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		8	32	目標	11	11	10	10
				実績	11			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	8	-	-	-	-	-
	実績		-	-	-	-	-	
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	エリア懇談会等を開催し地域の方々の意見を伺いながら、地域の魅力を高めるための取組を行っている。なお、今後は地域主体の活動に移行していくため、目標年度に向かって回数は減っていく。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	両国エリアの主要観光施設入込客数				単位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
2,037,000		37	目標	1,864,000	2,037,000	2,037,000	2,037,000	
			実績	2,330,966				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		2,037,000	2,037,000	2,037,000	2,037,000	2,037,000	2,037,000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
両国観光まちづくりランドデザインの推進により、両国地域の観光資源が区内外にPRされ、両国を訪れる観光客数が増加していく。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	4,000							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
エリア懇談会等を通じ、地域の方との協働により事業を推進しており、継続して観光まちづくりに取り組む必要がある。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
ソフトとハードが相互に連携し効果的に観光まちづくりを進めるために、地域の方々との協働による取り組みが必要である。		5	5	5	5
3 効率性・経済性		現状維持の上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
両国観光まちづくりが推進されることにより、区内外から観光客が訪れ、まちが活性化することにより地域が潤う。					
中間・最終年度の講評	引き続き、エリア懇談会等を通じ地域の方との協働による事業を継続することで、各エリアでの取り組みを観光まちづくりに繋げていく。				
今後の方向性	オリンピック・パラリンピックに向け、行政主導の事業の実施から地域主導の取組につなげていく段階に移行しながら、地域の自主事業を活性化するとともに、支援体制の構築を図る。				